

2020年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義「協同組合論」



<第3回(ZOOM)>

「協同組合と現代社会」

向井 忍 / NPO法人地域と協同の研究センター専務理事

第2回（10月12日）：受講43名（市民開放授業一般受講者等を含む）

人口減少社会を迎え、様々な問題と課題がある。自治体の人口が減少することで政治や経済、社会保障にまで影響があり、今あたりまえのようにある暮らしが成り立たなくなる。生協は、その時代ごとにある社会的課題の改善に向け協同の力で取り組んできた。人口減少社会で暮らし続けられる生活圏の維持が協同組合の役割である。何ができるのか、みなさんと共に考えていきたい。

【第2回／講義の要旨】

- ・ ロッチデール公正先駆者組合は、当面の目標を実現するために1844年にロッチデール原則を制定する。1895年にはICAが設立され1937年の第15回大会にて協同組合原則が採択された。この原則は、ロッチデールの原則から取り入れている。その後、1966年と1995年に改定してきた。「協同組合のアイデンティティ」（2015年ICA100周年大会）で、協同組合の定義と価値が確認された。これは、ロッチデール原則につながっている。
- ・ 協同組合を、事業の側面、地域・環境の側面、組織・運動の側面から捉えてほしい。
- ・ 生協は、地域と一緒に事業や取り組みをすすめている。コロナ禍にあり、子ども食堂でのフードパントリーと生活相談、外国人留学生や日本語学校生徒への緊急食料支援がすすめられている。
- ・ 生協は、組合員どうしの顔の見える関係づくりを大切にしてきた。新型コロナウイルス感染症のひろがりから人と人の接触を避けるなど活動ができない状況が続いたが、組合員どうしで考えあい、様々な新しい活動が始まっている。
- ・ 人口減少社会へのパラダイム変化により、地域コミュニティを前提とした生協の基盤は変化する。グローバリズム×人口減少社会＝持続可能なコミュニティへの道である。
- ・ 協同組合が実現するニーズは何か、それぞれの協同組合で問題が解決できるのか、地域社会とどうかかわっていくのか、そして協同組合はどのような社会をめざすのかを考えていかなければならない。

第3回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・特に印象に残ったのは、「café わたぼうし」の顔の見えるお弁当依頼というテーマのスライドです。コロナの影響で、見えた人と人との繋がりあいの大切さや、こういった状況だからこそ分かる、その尊さや需要といったもののある種象徴だと感じました。このような姿が協同組合に求められる一つの役割だと、また一つ協同組合に対する知識への肉付けがなされたことを実感したテーマでした。また、“豊明市おたがいさまちゃっと”というテーマにもまた強い興味を引きつけられました。高齢化社会を迎えている現代日本、昨今高齢者による様々な事故や事件が問題視されている中で、このような事業は非常に重要な役割を担うに違いないと思いました。互いが協力し合うことで、一人一人の負担を軽減し、本当に助けが必要な時に助けを差し伸べることができるようになるこのシステムは、痒いところに手が届いたというか、今まで解決が困難であったり、コストパフォーマンスの都合上要求に応えなかった数々の事例や需要を一気に解決・満たすような画期的なシステムだと思いました。
- ・今回の講義で、協同組合はただ単に物理的、金銭的に救済する組織ではないという印象が強まった。協同組合は効率性よりコミュニティを優先した組織だと説明されたが、いくつかの実例が紹介されて本当にその通りだと感じた。協同組合には三つの役割があって、経済、文化、社会の側面から支える存在だということが分かった。
- ・協同組合が地域の様々な機関と深く関わっており、特に地方では人口減少も進む中でそれぞれの地域の住民らと連携し、持続可能性を担う存在としての大きな役割を果たしている事、そして新型コロナウイルスが至るところで影響を及ぼしている現在、その重要性はさらに高まっていることが改めて感じた。
- ・地域資源は各地域に限られているので、それをどう活かすのかが重要になってくる中で、新しいモデルや、様々なアプローチの仕方で、どのように地域を支えていくのかを考える上で勉強になった。協同組合が様々な側面で地域や住民に対して貢献しているのがわかった。これから日本は、人口減少も進み、少子高齢化が進むことも予測されている。これから我々若者が、地域とどのように向き合っていくか非常に大切な問題であるので真剣に考えたい。
- ・日本の協同組合の組合員数が1億500万人を超えていることに驚いた。協同組合は、大学生協のイメージが強いが、信用金庫や労働金庫も含まれることを知った。また、協同組合の社会における活動として、買い物難を克服するための、サロンの開設、移動店舗の実施、また、地域の人との憩いの場として、人と人が顔を見合わせて地域交流を盛んにするための、カフェの開設など、地域住民の事情を把握し、それに応じた取り組みをしていることが分かった。地域住民が生活しやすいような活動を行う協同組合は、私たちの生活にとって重要な役割を果たしていると思った。
- ・向井さんのお話を聞いていて、地域社会との繋がりという言葉が多く挙げられていて、その地域で暮らしている人々のことをとても大切に考えていらっしゃるから、私たちが暮らしやすいのは、向井さんのように生活を良くするために働いてくださっている方からだと改めて実感した。このコロナ禍で、オンライン上や少人数規模で集会を開くなど、この大変な状況下にあっても、積極的に地域のニーズを調査していて、また、この新しい社会が生まれ始めた中で、どのようにそのニーズに対応していくのか、ということをしっかり考えられていて、就職活動をどのようにしていくかと考え始めたばかりの私にとって、お手本となる行動力・考え方であった。

- ・コロナ禍だからこそ地域のコミュニティとの関係が大事であり、地域分散型経済を目指してきた協同組合の取り組みをおさなりにせず、その責務を果たしたいという向井さんのお話がとても印象的でした。コロナの影響から自宅で過ごすことが多くなり、人との関わりがほとんどなくなってしまった中で、その状況に順応し新たな協同組合の活動の形を可能な限り早く確立しようと試みるのは、簡単なことではないと考えるからです。
- ・協同組合は経済・社会・環境の側面を持っており、この3つが循環しているとありました。私はこの中でも特に環境（人間関係）が重要であると思いました。社会で生きていくうえで、精神的に豊かであることはとても重要だと思います。生協への加入年齢のグラフで、30代前後と高齢の2か所で加入者が多く見られることが分かりました。30代は子育てや近所付き合いなどで問題を抱えている人が多かったり、また高齢者は一人暮らしであったり、他人の介助が必要であったりします。このような人々の精神的な支えになっているのが協同組合の大事な役割であると思いました。
- ・前回の講義において協同組合の基礎的な知識を知ったからこそ、今回の講義でより大きな視点で、より現実に近い視点で、協同組合とはどういった組織なのかを知ることで、より協同組合に関する知識が深まったと感じる。協同組合が実際に、どうゆう形で活躍しているのか、その一端を知れた。コロナの影響で外出が減ったために、その活動は落ち込んでいるかと思っていたが、むしろコロナだからこそ、その重要性が再確認されていることがわかった。
- ・新型コロナウイルスによる従来の取り組みができなくなっている今、人とのつながりが重要である協同組合は感染予防対策を行いながらも新たな活動を模索し、チャレンジして成功しているということを知り、今できることを探し、厳しい状況にひるまず活動し続けていることを素晴らしいと思った。生協の行う活動が私たちの日々の生活に寄り添ったものであるということを感じた。常に顧客のニーズにこたえようという姿勢、暮らしやすく安全・安心な生活を行えるよう取り組んでいることは、協同組合が事業を行う上で重要であり、目的であるということを実感した。
- ・これからますます少子高齢化が進んでいきます。その中で今回の授業を聞いて、どのようにしていけば経済・社会がうまく循環していくのか、どのようにして国民が無理なく生活でき、地域間の格差をなくしていくかという論点が今後重要な観点だと考えます。また、これからの生活の変化を受け止めていかなければならない部分もあると思います。その中でもどのように豊かに、人々とのつながりを意識して生活をしていくべきかが重要であると感じました。その地域コミュニティやつながりを断ち切らないための組織が協同組合であると感じました。
- ・このコロナ禍において、人との関りや、社会においてのつながりの大切さに気付かされたため、協同組合の活動の中で、地域の人々とのかかわりを持ちながら行っている活動があることや、地域やその住民を支え、持続可能なコミュニティづくりをしているということに興味を持ちました。また、人口の大幅な減少による社会のあり方は、大きく変化すると思うので、これまでの活動だけでなく、高齢者を支えながらも、労働者世代や将来を担う世代への支援と継承をしっかりと行える体制に変化していかなければいけないと感じました。そのためにも、協同組合という立場をうまく活用して、持続可能で自立させられるようにしなければいけないと思いました。

以上